

第5回

地球はまるい その上にすべてが居ると 実感する場所

室蘭の地球岬に行くと、ぐるっと開けた海の風景に圧倒される。地球岬の名前の由来はアイヌ語で「ポロ・チケプ」＝断崖という意味からきているそうだ。このチケプがどんどん訛^{なま}って、チキウ→地球になったとか。それにしても、地球岬という名前がとてもぴったりの場所だ。

灯台の上の展望台から見渡すと、水平線が丸く見える。見ているとどこまでも続く海の向こうに何があるのか想像をかき立てられる。そして、地球が丸い星なんだと実感する。丸い星にすべてが乗っかっているのは、地球が惑星である以上、当たり前なんだけれど、そんなことは普段は当然意識していない。なのにここにきて海を見ているだけで、「地球は青かった」と言ったガガーリンのように「地球は丸かった」と思い出す。

地球が生まれてから何度も何度も地殻変動があり、波が地形を削ったり、その自然の持つ長い時間が、地球岬の周りのさまざまな景勝を生み出している。「金屏風・銀屏風の断崖絶壁」や「トッカリシヨ」など、どのくらいの時間をかけてこの姿になったのだろうと、地球の時間の長さは想像を超えてしまう。そして人類の歴史はまだまだ短いのだろうなあと思う。

ゆっくり、のんびりを信条にしている割に、時間のない日々を送ることが多いのだけれど、時折、地球岬でたずんだことを思い出す。人はちっぽけな存在だからこそ、自然と地球とともにあることを忘れてはならないし、長い時間をかけて創造してきた地球に生かされているのだと、感謝の気持ちを忘れてはいけない。ふとそんな気持ちがこみ上げると、日々がとても愛^{いと}おしくなる。

雪が溶けたら、また地球岬に丸い水平線を見に行こう。



すずき もも

イラストレーター・絵本作家／スローフードさっぽろリーダー

東京生まれ、北海道夕張育ち。広告や雑誌、カレンダーなどのイラストを描くほか、イラストで綴る町案内の本や絵本などを執筆。代表作に「さっぽろおさんぽ日和」（北海道新聞社）「わくわくおやつ手帖」、近著に絵本「はるとなつ はたけのごちそうなーんだ？」（アリス館）がある。また、食の活動として13年続けた「スローフードフレンズ北海道」からのれん分けで「スローフードさっぽろ」を2016年に立ち上げ、食を中心に環境や暮らしの大事に取り組んでいる。モットーは4つのS。「Simple, Slow, Small, Smile: ささやかに、ゆっくり、ほどほどに、にこにここと」。

